

日本産業標準調査会 (JISC) が提供するデータベースによると JIS B 1168 の最新改正日は1994年3月1日となっており、およそ30年ぶりに改正に向けて取り組む形となる。現在メーカーやユーザー、その他各機関の関係者等で調整を進めており、産機工より草案作成を委任された山本社長が現行規格の問題点及び修正案を取りまとめた後に原案作成委員会を正式に発足する予定。そのため新規格の施行スケジュールに関しては現時点では未定となっている。

日本産業規格 (JIS) のうちアイボルトの規格を定める「JIS B 1168」がおよそ30年ぶりに改正される見通しだ。関係筋によると現在 (一社) 日本産業機械工業会 (以下、「産機工」) を中心として大学関係者、その他アイボルトメーカー関係者等を交えて規格改正に向けて動き始めている。改正にあたり産機工より規格改正を依頼された静香産業 (株) (大阪市港区) の山本泰史社長に経緯や今後の方針について話を聞いた。

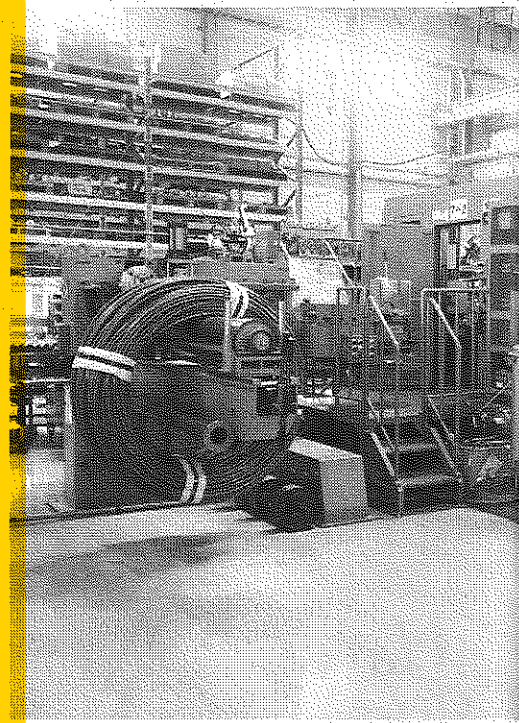
アイボルト JIS 規格改正へ

産機工 静香産業が草案作成

規格改正にあたってアイボルトメーカーの立場からは静香産業 (株) の山本泰史社長が中心的な役割を務めており、山本社長は今回の取り組みについて「アイボルトの規格は周知されているとは言いが、使用方法等について問い合わせを受けることが多々ある。また残念ながら (アイボルトの) 規格の認識不足による事故も起きているのが現実だ。他社の製品でもアイボルトに関する調査の際原因究明など協力を惜しまず対応してきた点やアイボルトにおいて鋼材から製品に至るまで妥協なく全て純国産にこだわ

規格改正の際に評価されている姿勢が評価されて今回の依頼に至った。前回の改正から時間が経っていることもあり見直すには良い機会ではないか一言背景について話している。山本社長によれば今後は国際規格である ISO 3266-2:2010 (一般的な吊り上げ用の鍛造鋼製アイボルトグレード4) を参照しながら両規格の整合性を図ると共に、現行規格の問題点及び新規格の草案を取りまとめる予定。

また今後について「使用者にとって分かりやすく、より中身のある規格にしたいと考えている。日本のモノづくりのために問題を送りにせず改正に向けて動きたい」旨話し、規格改正に向け意欲を示した。

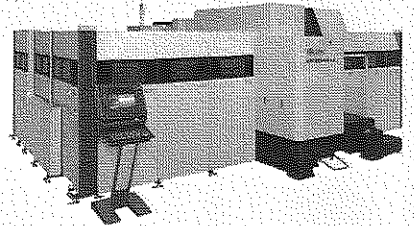


導入した7段パーツフォーマ (加須第1)



加須第2工場の切削設備

MILCOSE-TOHL



Your Torque Partner

Windows や iOS 機器で帳票電子化が簡単に!

期待できる効果は『二度締め』や『ねじのかじり』の検出

New Bluetooth® 搭載デジタルトルクレンチ **CEM3-BTLA** シリーズ

締付けトルクと角度で高度な合否判定。

Bluetooth® i-Reporter

XC-Gate ENT エクシゲート Enterprise

CEM3-BTLA の製品情報は こちらから

同社のファイバーレーザー複合加工機は、タレットパンチプレスベイスの「MF30510H」「MF3048H」のほか、レーザ加工機ベースでフラインクオプティクス方式を採用した「LS3015HL」「LS2512HL」の2シリーズ4機種と、こ

者を対象に、県内の関連機関に特別相談窓口を設置するほか、運転資金又は設備資金を融資する災害復旧貸付を実施する。信用保証協会が一般保証とは別枠の限度額で融資額100%を保証するセーフティネット保証4号を適用する。問い合わせは中小企業庁まで。